

ローマ人を介しての保護

2023年5月21日

使徒の働き 23章12～35節

序：エルサレムでパウロが神殿を汚したという理由で大混乱・大騒動（by 民衆）
ローマ軍が鎮静のため出動、裁判もせず鞭打とうとした
パウロが、ローマ市民権保持者であることを宣言
指揮官である千人隊長の恐れ、パウロ保護（身柄を拘束、留置）
エルサレムの民衆への弁明（回心のあかし、異邦人伝道への召し）
ユダヤ議会での弁明（サドカイ派とパリサイ派の激しい対立）
再び、身の危険 ⇒ パウロ、再び兵營に戻される

I. パウロ殺害の陰謀

翌日、早朝、徒党を組んだユダヤ人たち40人（右派の武装集団？）
議員たちが判定をくださなかったことへの不満うっせき・苛立ちクライマックス
「自分に呪いをかける」ほどの強烈な覚悟
暗殺計画＝祭司長たちの協力を得て、パウロを再度議会に誘導する、途中で殺害
連れてくるには千人隊長の許可が必要

II. パウロの甥のパウロ救出活動

この待ち伏せ・暗殺計画を知った パウロに伝えた
パウロ ⇒ 百人隊長 この青年を千人隊長に面会させてほしい
百人隊長は彼を千人隊長のもとに連れて行った
千人隊長と青年（甥）
ユダヤ人の決死の陰謀・パウロ殺害計画・手はずを整えて待ち伏せ
パウロを出すことを承諾しないよう懇願
千人隊長はこの青年の報告を信用
固く口止めて帰らせた

III. 迅速で用意万端のパウロ移送準備

(1)二人の百人隊長に準備・実施を指示

時は今夜9時出発
行く先はカイサリア（常駐のローマ総督フェリクス）
囚人一人にしては、大規模な護衛（歩兵 200人、騎兵 70人、槍兵 200人）
パウロが乗る馬の用意

(2)総督フェリクスへの書簡

①差出人：千人隊長の名はクラウディウス・リシア
皇帝の名（市帳をとった時の?）

②内容：ローマ市民である囚人ユダヤ人パウロを救出したいきさつ
訴えの理由：宗教上の理由（死刑や投獄に当る罪はない）と判明
カイサリアに移送する目的：暗殺計画の情報入手
エルサレムでは安全を確保できないので、
総督に身柄を預け、訴えあれば審理を願う

注：27節は事実と少し異なる？

ローマ市民権のことは不当に鞭打とうとした時に判明した

Ⅳ. カイサリアへの無事護送

- (1)エルサレム ～ アンティパトリス ～ カイサリア
5 6 km 3 5 km
兵士たち ⇔ 騎兵たち

わずか一昼夜の迅速な護送・強行軍

- (2)総督フェリクスにパウロを引き合わせた
騎兵が千人隊長の手紙を渡す
- (3)総督が手紙を読んで、パウロに引見
出身地確認（管轄：事件が起きた場所か出身地）
総督自ら処理することを決定
訴える側の者たち（エルサレムのユダヤ人たち）が来た時に裁判
- (4)総督の官邸（ヘロデ大王がカイサリアに建てた宮殿）にパウロを保護

Ⅴ. 結び

- (1)ルカはなぜこのようなことを詳細に記したのか？
まぎれもなく、実際の歴史上の事実であったから（支配者たちの名、地名）
パウロのローマ行きを順序に従って記するため
この世の歴史と教会の歴史の関わりを記するため
- (2)次々に訪れるパウロの試練・信仰ゆえの戦いは、差はあるもののすべての信仰者が
経験するものである（前例、経験の共有）
- (3)主は脱出の道を備えておられる
身内の者を通して
時の支配者・権力者を動かして
同じ信仰を持つ者を通して
- (4)大事なことを完遂するには
目標をはっきりさせる（ここではパウロの安全を守る）
準備は具体的に（時、方法、規模）
行動は速やかに、確実に、丁寧に、落ち着いて